

高田工業団地に新たな企業進出が決定！

全区画が完売

鳥取県と大山町は1月22日、株式会社タグチ工業（本社・岡山市、田口裕一社長）と高田工業団地への工場進出の協定を結びました。当団地への進出はこれで7社目となり、これにより、平成元年に造成を始めた工業団地はすべて埋まりました。従業員は地元採用し、来年秋の創業開始を目指します。



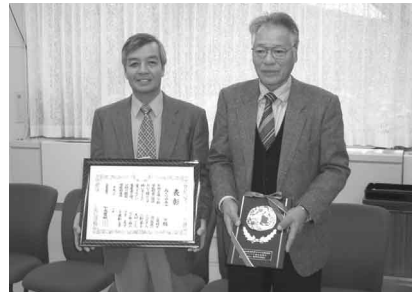
大山支所で行われた調印式で、固く握手をする平井知事、田口社長、山口町長

造メーカーで、岡山市内の4カ所と埼玉県内に工場があります。このほど増産を図って新工場を建設することになり本町に進出を決定したもので、敷地面積約1万平方メートル、建物面積は約4千平方メートルで、従業員は10～15人でスタートし、将来は30人に増やす予定です。

大山支所で行われた調印式で田口社長は、「初めて現地を訪れたのが、折しも9月29日の山陰道開通式の日で、米子インターからも近く便利だと知りました。でも、最後の決め手は山口町長の人柄と熱意でした」と振り返りました。また町長は、「これをきっかけに大山町にいろんな風が吹くことを期待します」と話し、平井知事も「新しい技術で産業が活気づいてほしい」と励ましました。

学校給食に貢献

学校給食関係団体として県教育長表彰



（写真左から）表彰状を手にする会長の小川さんと橋手を手にする二宮さん

みくりや市運営協議会（会長 小川 孜・会員68人）が、学校給食の普及とその充実に優れた成果があった生産者団体として、平成19年度鳥取県学校給食優良学校等表彰で、県教育長から表彰されました。表彰式は2月12日、県庁で行われ、会長の小川さんと食材供給担当として尽力された二宮順雄さんが出席し、中永教育長から賞状と楯が手渡されました。

同協議会は現在、名和学校給食センターをはじめ、大山学校給食センターに地元で採れた野菜などの食材を提供しています。センターとの連携を密にし、要望に極力対応し、形にあまりばらつきがなく、適正な農薬を使用した新鮮で安心・安全な食材の供給に努めており、その功績がこのほど認められたものです。（裏表紙関連）

地域ぐるみで非行防止、犯罪予防を考えよう

大山地区保護司会と更生保護女性会の呼びかけで、大山中学校区の小・中学校の保護者らを対象に、非行防止と犯罪予防を考える「公開ケース研究会」が1月30日、大山中学校のランチルームで開かれました。法務省鳥取保護観察所から三宅康至企画調整課長を迎え、民生・児童委員や教師らも交え59人が、県外で実際にあった中学生の保護観察事例をもとにグループ討議を行い、その問題のありか

立ち直りをどう支えるかについて意見を交わしました。グループからは「子どものサインを見逃さない」「夫婦は仲良く何でも話せるように」「地域も子どもに声をかけるべき」などの意見が出されました。三宅課長は講評で、「こういう機会を通して家庭について考えていただきたい。そして、地域で更正をしている人たちにかかわってほしい」と結びました。西伯保護区保護司会会長で大山地区保護司の前田義機さんは、「地域のみなさんの連帯意識が自発的な犯罪予防活動となることを期待します」と話しておられます。



グループ討議をする参加者のみなさん